

たかやまじどうしゃたんきだいがく
高山自動車短期大学
ぼうさいまにゅある
防災マニュアル

◆ほんがくほむぺーじ本学ホームページにも掲載けいさいします

令和7年10月

1 各種災害への備え

1. 日頃の心構え

- (1) 避難訓練 に 参加する。
- (2) 避難器具・避難するルート・避難する場所 を 確認する。
- (3) 家族との連絡方法 と 待ち合わせ場所 を 確認する。
- (4) 大学 や 友人などへの 連絡方法の確認 と リストの整備 をする。
- (5) 帰宅ルート と 所要時間 を 確認 する。
- (6) 防災カード 緊急時 個人メモ(※1)を 記入する。
- (7) 防災グッズ や 緊急時に必要なものを 確認する。
- (8) 高山市HP 災害から「いのちをまもるため」の 情報を 確認する。
- (9) 災害伝言ダイヤル「171」サービスの使い方 を 確認する。

2. 大学内における防災対策

1. 高い階では 多量の可燃物 を 使わない。
2. 室内の壁には、装置などを固定できるよう 横板を取り付ける。
3. 通路がふさがれた場合を 考 え て、避難経路を いくつか 確保する。
4. 懐中電灯 ・ 工具 ・ 救 急用具 を 準備する。

3. 避難／滞留について

- (1) キャンパス内では、避難場所一覧図 に従い、避難 または 滞留 する。

※ 学生会館の場合、館長の 指示に従って 避難する。

※ 状況が悪化し 校舎内が危険と判断されたとき

教員の指示 または 学内放送に従い、落ち着いて 指定の避難場所へ避難する。
負傷者は、近くにいる者が 搬送する。

2 高山自動車短期大学の避難場所 一覧図

1. キャンパス内の避難場所



※ 状況が悪化し 校舎内が危険と判断されたとき

教員の指示 または 学内放送に従い、落ち着いて 指定の避難場所へ避難する。

負傷者は、近くにいる者が搬送する。

3 災害発生時の初動対応

●震度5 強 以上に相当する災害が発生したとき

1	地震発生直後	自分の身を守る ・衣服や持物などで 頭を覆い、落下物から 身を守る。 ・机の下などに 身を伏せる。 ・周辺の状況に注意し、倒壊の恐れのあるものから離れる。 自分のいる場所は安全か？ YES NO
2	揺れがおさまったら	その場所から動かない 避難する
3	各自の対応による対処	【災害発生時の緊急対応】次ページをみてください 教員又は学内放送の指示に従い、指定避難場所へ避難する。
4	落ち着いたら… 1	状況の確認 大学へ 安否状況を連絡 学生会館、自宅、アパートまで 歩いて帰れるか？ 交通機関は動いているか？ *帰宅の判断基準 自宅がキャンパスから10km以内(徒歩2時間) 10km以内である 10km以上
	落ち着いたら… 2	歩いて自宅へ 避難所へ

●火災が発生した場合（火災を発見した場合）の対応

- ・大声で 周りの人（先生・学生 など）へ 知らせる。
- ・発生した場所 を 確認する。
- ・火災報知機のボタン を 押す。
- ・119番通報する。
- ・教員の指示などに従って 初期消火 をする。

ただし、火が天井まで達している場合は、危険なので 近づかないこと。

【地震発生したときの緊急対応】

地震で強い揺れを感じた場合、あわてず冷静に各自対処する。

すばやく自分の身を守るための3つの行動「まず低く、頭を守り、動かない」

1. 学内にいる時に地震が発生した場合

【地震発生時】

教室の場合	●速やかに机の下に もぐり、身体(特に頭部)を守る。 落下物・倒壊物・ガラスの破片 から 身を守る。
実習中の場合	●すぐ中止する。可能な場合は、素早く 火気を消す。
廊下にいる場合	●窓が割れたり、壁が倒れてくる 危険があるので、近くの教室に 避難して机の下に もぐる。 ●近くに教室がない場合、蛍光灯など 落下するかもしれないものや、窓から 離れ、衣類や 持ち物で 頭を覆って かがむ。
トレセンやグラウンドの場合	●落下物の 危険がない場所に 移動して しゃがみ、揺れがおさまるのを待つ。
キャンパス内(屋外)や路上を歩行中の場合	●ガラスの破片や看板などの 落下物を避けるため、頭を 衣類や 持ち物で 守りながら 近くの空き地や 頑丈な建物の中などに 避難する。 ●木造のたてもの、自動販売機、ブロック塀のそば、建物の壁際などは あぶないので、ぜったいに 近づかない。 ●切れて垂れ下がった電線 は 近づかない、さわらない。 ●地面の亀裂・陥没・隆起や、電柱・塀などの 倒壊に 注意する。
火気使用中の場合	●揺れがおさまってから 火の始末をし、電気器具などの 電源を切る。 ●火の始末が 不可能な場合は まず自分の体 を 守る。 ●火災が発生した場合 発生場所を確認。火災報知器を押し、119番通報する。 揺れがおさまってから 消火活動を行う。 ※ただし、火が天井まで達している場合、危険なので近づかない。 初期消火ができないと判断した場合は、すぐに部屋のドアを閉めて避難し、 大学に報告する。
学生会館の場合	●館長の指示に従い 避難する。

【実習施設等での注意点】

実習施設などでは、次の点について注意をしてください。

- ◆ 可燃性ガスボンベ から ガスが噴出、発火した場合は、まず 周囲の可燃物を 除去してから 注水、消火する。
- ◆ 火災の大きさ、有毒ガスや 煙の発生 などの状況が、手に負えないと 判断したときや 天井まで 炎が達し 延焼し始めた場合は、すぐに屋外に待避し、教職員に報告する。
- ◆ 避難するときは 電源、ガスなどを切り、危険物などの処理を できるだけ行う。

【揺れがおさまったら】

- (1) 自分の安全を 守れる範囲で、初期消火、救助活動（負傷者の手当等）をする。
- (2) 授業中は、教員の指示で 避難する。（エレベーターは使用しない）

【落ち着いたら…】

- (1) 状況を 確認する。
- (2) 大学へ 安否状況を 連絡する。（【大学への安否状況の連絡方法】をみる）
- (3) 大学にいる場合は 学内放送に従う。
- (4) 交通機関は動いているか などの 正確な情報を あつめる。
- (5) 自宅への距離が 10 km以内の場合、帰宅先を 大学へ報告してから、帰宅する。
- (6) 自宅への距離が 10 km以上の場合、移動先を 大学へ報告してから、避難所へうつる。

☆多くの公共交通機関が 運行停止 や 帰宅抑制となった場合は 大学に 留まること。

2. 学外地震にあったとき

【地震発生時】

- (1) 周りの状況に注意し、身の安全を確保する。
- (2) 倒れたり 壊れるかもしれない 建物や塀などから 離れ、落ちてくる物 にも 注意する。

<アパートで生活している場合>

普段から 非常持ち出し用 の 備品を準備 し、避難経路の確認 と 家具の転倒防止など をしておく。
また、非常時の連絡方法や 安否情報の確認方法などを しっかり決めておく。

- 落下・転倒の恐れがある 家具や窓際から 離れ、テーブルや 椅子の下に 身を伏せる。
- 火の始末をする。揺れが大きい場合は 無理しない。
揺れがおさまってから ガスやストーブを消し、元栓を閉める。電気器具は コンセントを抜く。
- 揺れの合間を見て 出口を確保する。
- 周囲の状況を確認してから避難。足元の散乱物や 頭上の落下物に注意。電気のブレーカーを落とす。
- 集合住宅の高層にいる場合でも、エレベーターを使わない。必ず 階段を使用する。
- 自分の避難先を 家の前に メモで張り出しておく。
- 周囲と 声をかけ合い、助け合って 消火、救出、救護活動 を 行う。

【揺れがおさまった後】

- (1) 被害状況を 正しく把握する。
- (2) 事前に 相談して決めた 避難場所に 移動する。
- (3) 避難中は 警察や消防の指示に従う。

【避難または滞留後】

- (1) 家族の状況を確認する。
- (2) 大学へ 安否状況を メールで連絡する。(【大学への安否状況の連絡方法】をみる)
- (3) 交通機関は動いているか などの 正確な情報収集をする。
- (4) 自宅への距離が 10 km以内の場合、帰宅先を 大学へ報告してから、帰宅する。
- (5) 自宅への距離が 10 km以上の場合、移動先を 大学へ報告してから、避難所へうつる。

【帰宅する場合の注意点】

- ・交通機関は動いているか など 正確な情報収集をする。
- ・余震がおさまってから 帰宅を開始する。

【避難時の注意点】

避難する時は 余震に 注意しながら、落ち着いて 行動してください。

- ◆ 衣服や持ち物などで 頭を覆い、落下物から 身を守る。
- ◆ 室内では ガラスなどに 注意し、壁づたいに 歩き、廊下は 中央を通る。
- ◆ できれば、ドア付近にいる人は ドアを開け、出口を確保する。
- ◆ 負傷者や 身障者を 優先し、手助けをしながら 避難する。
- ◆ 避難時は 必ず 階段を使う。エレベーターは使わない。
- ◆ 作業中の 実験機器等を 停止する。
- ◆ その後の 余震に注意し、建物の 状況が、余震で 倒壊する恐れのある場合は、指示された場所へ 避難する。

☆大規模災害 発生直後は 交通機関の麻痺、道路の大混雑が 想定されるため、一斉帰宅が 抑制される 場合があります。

避難所へ 行くときに 持っていくもの

- ◆ 水・食料(数日分)・毎日飲んでいる薬 ◆ 携帯電話用 モバイルバッテリー
- ◆ うわばき・アイマスク・耳栓 (避難所は 学校の体育館などが多いため必要です)

※明るいうちに 自宅に到着できるようにする。

- ◆ 夜間の行動は 避ける。 ◆ 幹線道路 (大きい道)を 通る。
- ◆ できるだけ 帰り道が 同じ方向の 仲間と一緒に 帰宅すること。

【大学への 安否状況の 連絡方法】

大学より、メールで お知らせします。

内容を確認し、安否状況を 連絡してください。

自分の安否と 避難先を 大学へ連絡する (友人の情報も分かれば あわせて連絡する)。

「高山自動車短期大学 学生ポータルサイト」も 確認してください。

4 さいがい じ きんきゅうれんらくさき 災害時の緊急連絡先

1 だいがく きんきゅうれんらくさき 大学への緊急連絡先

名 称	電 話 番 号	備 考
大 学 事 務 局	0577-32-4440	ほんぶどうじむしつ 本部棟1F事務室

【こうせい か 厚生課】

名 称	電 話 番 号	備 考
がくせい かい かん A チーフインストラクター	080-8254-9344	
がくせい かい かん C チーフインストラクター	080-8254-9138	
りゅうがくせい・つうがくせい たいおう 留学生・通学生 対応	080-8254-9885	

2 さいがい じ じょうほうかくにんしゅだん 災害時 情報確認手段

発 信 元	URL
だいがく こうしき サイト 大学 公式 サイト	https:// takayamacollege.ac.jp
あんび じょうほう しすてむ 安否 情報 システム	つぎのページを参照 次のページを参照

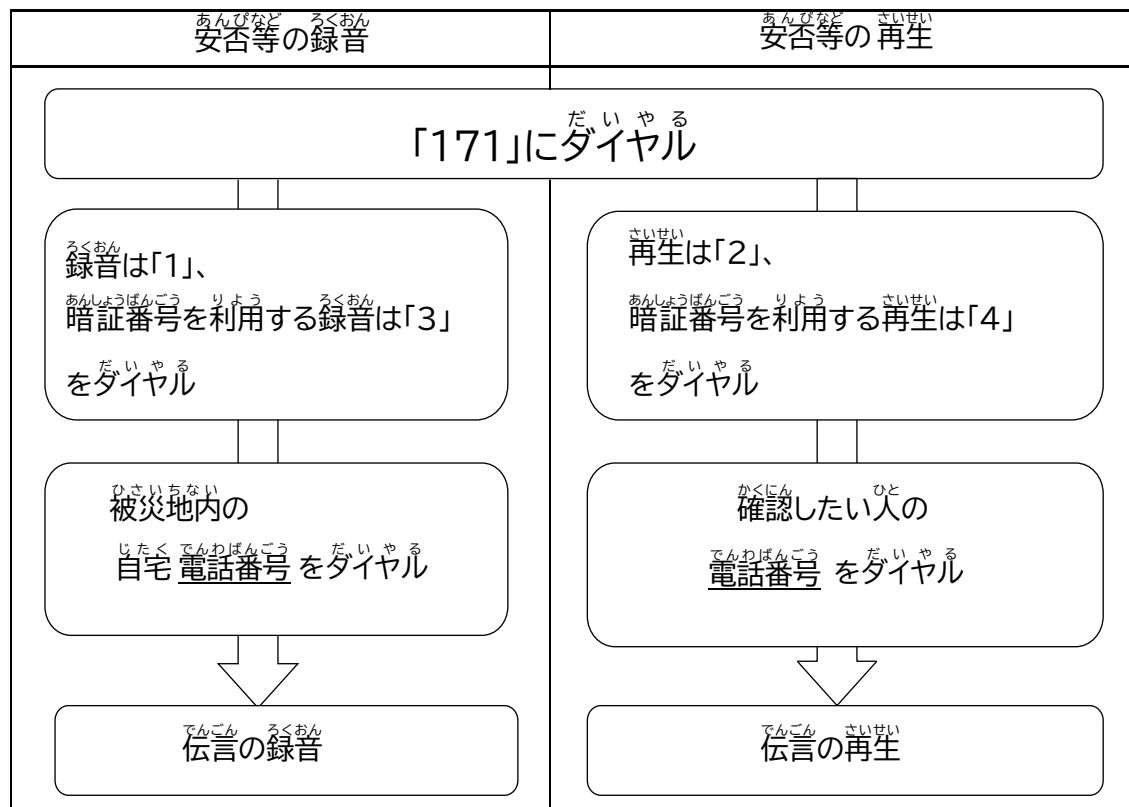
3 たかやまし おも さいがいたいさくかんけいきかん 高山市の主な災害対策関係機関

種 類	機 関 名 称	電 話 番 号	備 考
しょうぼう 消 防	たかやまししょうぼうしょ 高山消防署	119	かさい きゅうきゅうとう 火災・救 急等
けいさつ 警 察	たかやまけいさつしょ 高山警察署	110	
ぎょうせい 行 政	たかやましやくしょ 高山市役所	0577-32-3333	
	しみんほけん けんこうすいしんか 市民保健部 健康推進課	0577-35-3160	しょうどく ぼうえき 消毒・防疫
	たかやまし しげんりさいくせんたー 高山市資源リサイクルセンター	0577-35-1244	ごみ・はいきぶつしより ごみ・廃棄物処理
びょういん 病 院	たかやまにっせきびょういん 高山日赤病院	0577-32-1111	
	くみあいこうせいびょういん 久美愛厚生病院	0577-32-1115	
ぎふけん きんきゅうじょうほう ききかんりじょうほう 岐阜県緊急情報・危機管理情報HP		https://www.pref.gifu.lg.jp/soshiki/11117/	
たかやまし きんきゅうじょうほう ききかんりじょうほう 高山市緊急情報・危機管理情報HP		https://www.city.takayama.lg.jp/1012994/index.html	

<NTT災害伝言ダイヤル「171」サービスについて>

音声による伝言の録音・再生を利用して、家族等との連絡に活用できます。

■利用方法



※利用できる電話について

災害用伝言ダイヤル(171)(電話サービス)が利用できる電話は、NTT加入電話、公衆電話、ひかり電話(電話サービス)および災害時にNTT東日本およびNTT西日本が避難所などに設置する特設公衆電話です。

携帯電話等からの利用については、契約している各通信事業者にお問い合わせください。

※1<緊急時個人メモ>

しめい 氏名(ふりがな)
がくはきばんごう 学籍番号
せいねんがっぴ けつえきがた 生年月日・血液型
じゅうしょ 住所
こていでんわ けいたいでんわ めーるあどれす 固定電話・携帯電話・メールアドレス
かぞく れんらくさき 家族の連絡先
かぞく がっこう きんむさきれんらくさき 家族の学校・勤務先連絡先
きんきゅうれんらくさき 緊急連絡先
かぞく しゅうごうばしょ 家族の集合場所
じびょう 持病
あれるぎ アレルギー
かくようくすりめい たんい にち かい かい じょう 服用薬名、単位(mg)、1 日・回、1 回・1 錠

じ しん はっせい じ き ほん こうどう か じょう 5 地震発生時の基本行動 10カ条

1. まず、身の安全を確保

- ・最初の揺れにより、瞬時の判断が必要。
- ・あわてて外に飛び出さない。
- ・ガラスが割れて飛び散る恐れがある窓のそばや落下・転倒の恐れがある家具などから離れる。
- ・カーテンやブラインドを閉める。
- ・机やテーブルなどの下にもぐって、身を守る。このとき机などが動かないよう、机などの脚をしっかりと押さえる。

2. すばやく火の始末

- ・揺れが大きい場合は、揺れが収まるのを待つ。
- ・揺れが小さい場合は、使用中のガス・ストーブなどを早く消す。
- ・ガスの元栓を閉め、電気のコンセントをぬき、ブレーカーを切る。
- ・119番へ通報してから火災報知器のボタンを押す。

3. 脱出口を確保

- ・地震による家の歪みで扉が開かないとき、揺れを感じたら、玄関・窓などを開けて非常脱出口を確保する。

4. 火災を見つけたら すぐ消火

- ・火が天井まで燃え移る前ならば、消火チャンスあり。消火器やバケツなどで初期消火をする。
- ・消火できない時は、すぐ部屋のドアを閉め、火災が発生したことを、大声で回りに伝えながら避難する。
- ・火災で煙が発生したら 身をかがめ、水で湿らせたハンカチで口をふさぎ、煙を吸い込まないように注意して避難する。

5. 外へ逃げるときは あわてずに

- ・揺れが収まるのを待って、周囲の状況を確かめてから避難する。
- ・足元の散乱物や、頭上の落下物に注意して避難する。素足はダメ。くつを履くこと。
- ・火災の原因になるので、電気ブレーカーを切る。
- ・エレベーターはダメ。階段を使うこと。

6. 狭い路地・崖・川べりに近づかない

- ・狭い路地や塀のそばは、瓦などが落ちてきたり、ブロック塀や自動販売機が、倒れたりするかもしれないので、近づかない。
- ・崖や川のちかくは、崩れやすくなっている場合があるので、近づかない。

7. 協力しあって 消火・救出・救護

- ・近所で火災が発生していたり、閉じ込められている人がいたら、近くの住民と協力しあって消火・救助にあたる。
- ・災害時には、病院等で手当できる患者の人数に限りがある。軽い症状などの処置は、お互いに協力して応急救護をする。

8. 避難は徒歩で

- ・まず大学へ連絡をして、指示に従う。
- ・歩いて避難する。車はダメ。
- ・何を持ち出すのか 決めておく。
- ・避難場所を確認し、連絡方法を決めておく。

9. 山崩れ・崖崩れ・津波に注意

- ・山・崖崩れや津波などの危険が予想される地域は、避難命令を待たず、すぐ避難を開始する。
- ・海岸近くで揺れを感じたら、津波発生を警戒し、すぐに高台やビルの屋上などへ避難する。

10. 正しい情報を確認

- ・ラジオや防災無線などから正確な情報をつかみ、的確な行動を取る。
- ・デマや噂に惑わされない。
- ・地震直後で携帯ラジオがない場合、カーラジオを利用するのも一つの方法。